

「絵画と私」

神戸市 北区在住 島崎孝一

私と絵画との本格的な出会いは、大学の学生時代から始まります。当時私は岡山大学医学部に在学していましたが、近郊の倉敷市には有名な大原美術館がありましたので、勉強に疲れた時には授業をescapeして、しばしばその美術館を訪れたものでした。その頃は御多分にもれず、モネ、ルノアール、ピサロ、セザンヌ、コローなどの主として印象派の画家に親しみを感じておりましたが、又別に特に印象に残って畏敬の念を感じたのはエル・グレコの「受胎告知」でありました。彼の時代の特異な青や赤の色づかいが非常に神秘的に感じられ、中央部分の人物像が炎の様に上昇するかの様な力強さで迫って来たのを覚えております。卒業後は大原美術館とも御無沙汰しておりますが、その代わりに我家の玄関や各々の部屋には、類なき色彩感覚と包容力にあふれた修太先生の11枚の力作が飾られ、訪問客や私共家族に至福の時を与えております。神戸阪急での10回目の個展を祝福致しますと共に、先生のクリエイティブなartの益々のご発展をお祈り致します。



DM解説



夏の訪れを知らせるように、毎年“修太・ブルー”の便りが届く。今年はまだ10回目の夏……。

「ヨット遊ぶサトウハ」F8号



「懐かしくて大切な宝箱」

宝塚市 在住 大山三千代

拝啓

初夏の風が心地良く、緑の美しい季節となりましたが、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。さて、この度は、いつも心待ちにしております森崎修太先生の個展が10周年を迎えるとのこと、心よりお祝い申し上げます。ところで、森崎先生の作品と出会って以来、もう、どのくらい経ちますでしょうか。紫紺の夜空、夕焼けの朱。凜とした瞳のパリジェンヌ。先生の作品に逢う度に、幼少の遠い昔に記憶が呼び覚まされる様です。先生の作品は、まるで私が幼い頃に感じた切なさに似たときめきや夢を心の宝箱から取り出して、その世界に連れて行ってくれる様に想います。不思議な物ですね。先生の作品の魅力は、懐かしさだけでなく、幼い日に、なりたいと願っていたパリジェンヌの様な女性になれた様に、その世界へと引き込んでくれるのです。先生の作品は、私にとって大切な宝箱その



ものです。今年も先生の作品の世界に触れて、素晴らしいどんな夢が、私を包んでくれるのかしらと、今からときどきしております。また、いつもとは違うゆったりとした時間が流れる空間へとひとときの休息に参ります。その時に、お目にかかれるのを楽しみにしております。

かしこ



「この時期が待ち遠しい」

神戸市 北区在住 奈良正明 / 良美

「森崎修太画伯」との初めての出会いは、4年前に何気なく訪れた神戸阪急DPの画廊でした。心憎いばかりに澄んだブルーの海、オレンジ色の夕焼け、私にはとても見えそうにないイエローの色使いなど、作品の一つひとつが優しく、かつ強力に語りかけてくるようでした。こんな素晴らしい絵を描ける人はどんな方だろうと、きょろきょろとしていたら、これまた立派な髭を蓄え、穏やかな目をされた人物が「Syu - t a画伯」でした。

冷やかしかも知れない、私達のつたない質問にも丁寧に答えて戴き、何とも言えない人懐っこさに至福の時間は流れました。すっかり絵と画伯のファンになった私達ですが、「この絵、欲しいね。買おうよ。」と相談している目の前で、2回も先を越されてしまったエピソードがあります。その代わり?に買った2枚の絵が、今ではすっかり家族の一員として、リビングと玄関に掛かっています。

そして、この季節になると個展開催の案内が待ち遠しい私達です。



「オレンジの風に魅せられて」

神戸市 須磨区在住 渡辺雅子

第1回目の神戸の個展で、絵の好きだった父が、修太ブルーに一目ぼれし上機嫌で1枚の作品を求めてから10年、長いお付き合いになりました。その絵は医院の看板になり、今では診療所の顔となっています。父が逝って5年がたち、初めて訪れた修太先生の個展で、地中海にしずむ太陽が、海をオレンジに染める絵に出会いました。その絵の前だけは、静かに時間が止まり、頬に温かく感じる風が私を包んでくれました。父に続いての一目ぼれでした。そして次の年、私を待っていたのは小さな1匹の黒猫でした。オレンジに染まる海を見つめる、後姿の背中は何故かとても優しく、遠くカリブの海で旅立った父が海の遥か向こうから私達を見守る姿にも重なり、私は黒い猫に2度目の恋をしました。2つのオレンジの絵は、それぞれに毎日全く違う顔を見せてくれます。1枚目は私を癒し、2枚目は私を叱咤激励します。色の魔術師と呼ばれる先生の絵から感じる風は日々変化し、いろいろな色の風が見ている私達を包みます。時には草の香りや、潮の香りもその中に混じり、草がざわめく音や波の音までも届けてくれます。肩を包む暖かい風に癒される日もあります。突き放すような力強い風に、もう少しがんばれと言う声を聞く日もあ



ります。そんなに意地を張るな!とのぼせた頭を静める、涼しい優しい風の日もあります。今日も、私やスタッフ、そしてたくさんの患者さん達にいろいろな風を送り続ける修太先生の絵に力をもらいながら、1人でも多くの方が修太先生のオレンジマジックにかかってくれるといいのにな~と思っている毎日です。



感謝

神戸での作品発表を覚えて10周年
を以てこの事かてきたへん感慨深く感
謝の念でいっはります。

あ、という間の10年でした。この間多くの
人達との素晴らしい出会い。作品の前で
語り合えたお喜び。そは街から色彩
が消えた95年。様々な時期を経
て私の指すにメッセージを受け止めて
下さった皆様に更にみおみおしい命
の輝きを現わした作品をこれから
発表したいと思っております。
これから見守って頂ければ幸いです。

2003. 7月

青崎 修三



Shinta